

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報
千葉県農林水産部
令和4年6月17日

幼穂形成期までに中干しを済ませましょう 4月植えの「ふさおとめ」は穂肥の時期です

[生育概況]

関東甲信地方は平年より1日早い6月6日に梅雨入りしました。6月は第2半旬から第3半旬にかけて気温は低く日照時間も少なく推移しましたが、「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期は平年並みにむかえています。4月20日植え「コシヒカリ」は6月23日頃から、「粒すけ」は6月22日頃からとなる見込みです。

また、草丈はやや短く、葉色は平年並みに推移しており、「ふさおとめ」「ふさこがね」では茎数がやや少なくなっています。ただし、県北地域の生育量は平年並みのところが多く、県南地域に向かうほど平年よりやや少なくなっています。

「ふさおとめ」は穂肥の時期に入っていますので、遅れないようにします。初期生育が悪かったほ場があり、ほ場ごとのばらつきがありますので、生育量に応じて施肥の時期と量を決めましょう。

表1 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	平年比 ^{※1}			
		生育進度 ^{※2}	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並	やや短	やや少	並
ふさこがね	4月20日	並	やや短	やや少	並
コシヒカリ	4月20日	並	やや短	並	並
	5月1日	並	やや短	並	並
粒すけ	4月20日	並	やや短	並	並

※1 平年比は過去10か年（2012～2021年）の平均値との比較。

ただし、「粒すけ」は過去7年（2015～2021年）のデータとの比較。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

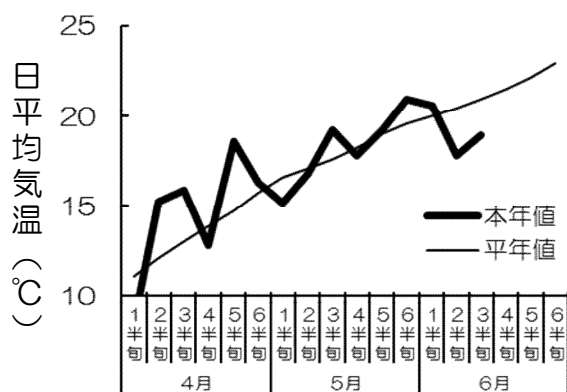


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

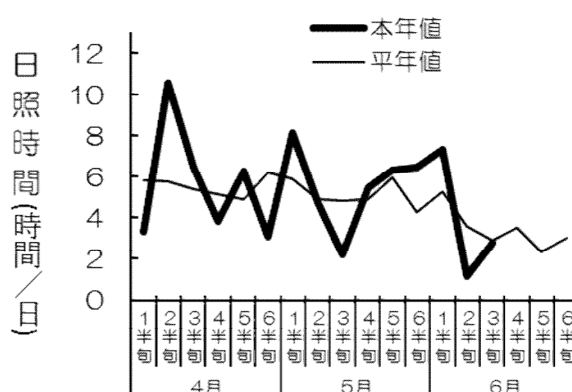


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■生育の進みに応じた適期作業の実施

「ふさおとめ」は既に穂肥の時期に入っており、「ふさこがね」はまもなく穂肥の時期を迎えますので、早めに準備しましょう。「コシヒカリ」、「粒すけ」はこれから幼穂形成期となりますので、それまでに中干しを済ませます。穂肥を実施する際は、必ず幼穂長を確認し、施用の時期・量を判断しましょう。

○穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月18日	6月15日	6月14日	6月14日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm~1cm】
ふさこがね	4月20日	6月20日	6月17日	6月15日	6月15日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月27日	6月25日	6月23日	6月23日	幼穂形成期7日後頃~ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm~8cm】
	5月1日	7月2日	6月30日	6月28日	6月28日	
粒すけ	4月20日	6月26日	6月24日	6月22日	6月22日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月27日頃~				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分けつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月4日頃~				

※幼穂形成期は、4月20日植付の「ふさおとめ」「ふさこがね」は水稻作柄安定対策調査結果から。「コシヒカリ」「粒すけ」は、生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg（房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1~2kg、「ふさこがね」は2~3kg、「コシヒカリ」「粒すけ」は2kg）です。

幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。

近年、秋の長雨・台風により、倒伏するほ場も多くみられますので、幼穂形成期の目標生育量（表4）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量3kg（ただし、たい肥を施用している場合は、窒素のみ3kg）が目安となります。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500(25~27 本)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560(23~30 本)			3.5~4.0
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)		5.0

※莖数の () 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均莖数

表4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 莖数 (m ² 当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収 目標どおりの生 育が期待 籾数確保のため 穂肥は必要 稈長が伸び、 倒伏が心配	増肥、または時期を 2~3 日早める。		
16,000 ~ 20,000	560 ~ 700	490 ~ 600	440 ~ 550	70~ 80cm		標準量	標準	×
20,000 ~ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰とな り、乳白米の 発生が心配 稈長が伸び、 倒伏が心配	減肥 (窒素施用量 1~2kg/10a) し て時期を遅らせる か、または無施用。		
				75~ 82cm		×	×	必要

※カラースケール値とおおよその莖数 (m²当り) の対応は、SPAD 値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

■水管理

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理を行います。(自然由来のカドミウムの吸収を抑える技術です。)

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10~15 日後 (出穂期 15~10 日前) に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため「深水管理」にします。

特に耐冷性が弱い「アキヒカリ」、「夢あおば」の 4 月植えについては注意しましょう。

■病害虫・雑草防除

病害虫発生予報第 3 報 (6 月 15 日) を発表しましたので、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課ホームページをご覧ください。

農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。



○斑点米カメムシ類 (畦畔雑草の草刈り)

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となり、出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込みますので、出穂 2 週間前までに畦畔雑草を刈取ります。

○いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

いもち病は、止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除をしましょう。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

紋枯病は、茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。近年では飼料用米栽培で発生が多いので発生状況を確認しましょう。

表5 いもち病、稲こうじ病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	稲こうじ病	紋枯病
ダブルカットフロアブル		○予防・治療		
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療	○	
カスミン 液剤		○治療		
バリダシン 粉剤 DL/液剤 5				○
モンカット 粒剤/フロアブル				○

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

○ナガエツルノゲイトウ（草刈り時の拡散防止）

侵略的外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」が県北地域の水田や畦畔に広がっています。茎断片でも容易に萌芽・再生します。そのため、草刈りにより個体数を増やす場合があります。また、草刈り時に茎断片が水路に落下すると水系を通じて拡散する恐れがあります。

畦畔に「ラウンドアップマックスロード」（3回まで）を散布すれば個体数を増やさず、「ナガエツルノゲイトウ」を抑えられます。散布は専用ノズルや飛散防止カバーを使用します。



写真1 白い花が咲く



写真2 畦畔から本田に侵入する様子

○イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、孢子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するか、焼却するなどの対応について、ご協力をお願いします。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月1日に発行予定です。



写真3 イネばか苗病